



温故知新



6月20日は健康住宅の日

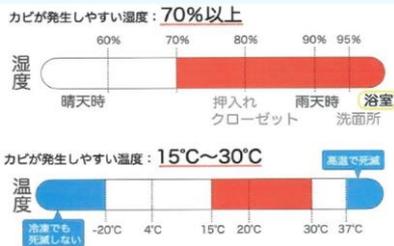


健康住宅の日は、カビなどの健康被害が増加する梅雨の時期であることからこの日に制定されました。

カビはどこに発生する？



カビを吸い込むとどうなる？



- 70%以上の湿度
- 15～30度の気温
- 栄養分(ホコリ、汚れ、ダニ)が豊富

- かゆみ
- 咳
- 鼻水
- のどの痛み
- 呼吸のトラブル

カビを予防するには？

①こまめに掃除する

カビの栄養源となるホコリや食べかすが部屋にたまっているとよりカビが発生しやすくなります。こまめに掃除してきれいな部屋を保つことが大切です。

②換気をする

部屋の空気がこもると室内の温度や湿度が高くなります。またクローゼットや押し入れなどの収納スペースも開けっ放しにする時間を作り定期的に換気を。

③湿度を下げる

湿度が60%以下になるとほとんどのカビは活動できなくなります！エアコンの除湿機能を有効活用してみましょう。

ひどいときは発熱や感染症になる可能性もあります！！



カビの掃除をするときはマスク・手袋・眼鏡・部屋の換気を忘れずに！

【今号の主な内容】

- P① 6月20日は健康住宅の日
- P② 令和4年度全国安全労働週間
- P③ 健康管理は安全の基本
- P④ ことわざ・次回案内



発行

野田工業 株式会社
東京都中央区銀座6-6-19
TEL：03-3572-1866

ことわざ・格言にならう安全衛生訓

- 三十六計逃げるに如かず ●
- ・火災や大水ではまず逃げること



「三十六計逃げるに如かず」とは、戦の最中、あれこれと策略に戸惑って、いたずらに時間を空費するより、ひとまず逃げのびて身の安全をはかり、時機を見て作戦を練り直すのが一番の得策だ、という意味です。なお、「三十六計」とは戦争をする場合の36種類の軍略・策略のことです。

戦の場から逃げるのは武人としてもっとも恥ずべきこと、とされていましたが、信長や秀吉、家康など大成した武人の多くは、戦場から逃げることにかけても天下一品だったようです。

消防署などでは、火災が発生したらまず逃げることを考えろ、といいます。火災はまだひどくないと思って火を消そうとしたり、品物を取りに戻ったりすると、火災に伴って発生するCO(一酸化炭素)ガスなどで体の自由が効かなくなり、逃げ遅れて命をなくすケースが多いからです。

「命あつての物种」です。火災や大水などの気象災難に出会ったら、まず逃げるのが最良の策だということを肝に銘じておきましょう。

【 職長会のお知らせ 】



★日時 2022年8月22日(月)

★時間 18:00~

★会場 銀座ユニーク7丁目 N302

安全大会開催のため、
次回の職長会は8月になります。



健康管理は安全の基本

現場内で私病が発症することが増加しています！！もしも作業中にめまいがしたり、具合が悪くなれば、墜落災害・転倒災害につながる可能性が非常に高くなります。



● 朝起きて調子が悪ければ無理をせずに休んで、病院へ！

これから暑くなると寝てる間に熱中症になることもあります。朝起きたらまず調子の悪いところはないか確認し、体温や血圧を測りましょう。

● 現場内で具合が悪くなったら即病院へ！

現場内で具合が悪いときに場内で休息を取ったり様子見をするのは禁止です。すぐに所長や職長に報告し病院に行きましょう。

● 年1回の定期健康診断の受診を忘れずに！

健康診断は毎年必ず受診しましょう。原則期限が切れてしまう前に受診する必要があります。余裕をもって予定を組みましょう。



● 所見や要再検査が出たらすぐに再検査を！

所見や再検査項目があれば必ず再検査をし、医師の診断をもらう必要があります。決して放置せずに再度受診してから現場に行きましょう。



安全大会のお知らせ



3年ぶりに開催することとなりました！！
関係者の皆様、ご多忙のところ恐れ入りますが、
ご参加のほどよろしくお願いいたします。

◎日時 2022年7月2日(土)

◎時間 14:30 集合
15:00 開始

◎場所 品川プリンスホテル
メインタワー 15F トパーズ



令和4年度 全国安全週間実施要領

～令和4年度スローガン～

安全は 急がず焦らず怠らず

◇本週間:7/1～7/7 ◇準備期間:6/1～6/30

会長メッセージ

令和4年度の全国安全週間を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。

全国安全週間は昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、一度も中断することなく続けられ今年で95回目を迎えます。

この取組は、我が国における労働災害防止活動の推進に欠かせないものであり、労働者の安全意識の高揚及び安全活動の定着に貢献して参りました。また本年も安全大会の開催等の人が集まる場所においては、新型コロナウイルス感染防止のため「3つの密」を避けるなど、会員各位には感染予防に必要な措置を講じた上での活動をお願いいたします。

令和3年の建設業における労働災害の死亡者数は288人と、過去最少となった前年よりも30人の増加、また、休業4日以上之死傷災害も16,079人と、こちらも過去最少となった前年に比べて1,102人の増加となっています。これは、新型コロナウイルス感染症り患による労働災害を除いた数字でも増加しているところであり、特に墜落・転落災害は前年より増加しております。

建設業は、地震等の大規模災害からの復旧・復興、激甚化する自然災害への備え、国土強靱化に向けたインフラ整備など、人々の安全・安心な暮らしを守るという重要な役割を果たさねばなりません。一方で、技術者・技能労働者の不足、建設労働者の高齢化の進展、外国人労働者の増加等のさまざまな現場対応、長時間労働やメンタルヘルス不調による健康リスクの増大、さらには増加傾向にある熱中症など、建設業が抱える課題についても引き続き対応する必要があります。

このような建設業を取り巻く状況を踏まえ、本年度が最終年度となる「第8次建設業労働災害防止5カ年計画」の目標達成に向け、建設業で最も多い墜落・転落災害撲滅に向けた取組をはじめ、建設業労働安全衛生マネジメントシステム(国際基準に対応した「ニューコスモス」及び中小規模建設事業場向けニューコスモスの「コンパクトコスモス」)の積極的な導入、建設現場におけるメンタルヘルス対策とこれに基づく職場環境改善、「新ヒヤリハット報告」を活用した安全衛生活動、職長・安全衛生責任者能力向上教育や外国人労働者などへの安全衛生教育の充実等を強く推進することとしております。

会員各位におかれましては、令和4年度の全国安全週間の準備期間及び本週間において取り組むべき事項をまとめた本実施要領を参考に、経営トップの強力なリーダーシップの下、関係者が一丸となって現場での自主的な安全衛生管理活動を一層推進し、安全な職場環境の形成をお願いします。

令和4年6月
建設業労働災害防止協会 会長 今井雅則

